

公 園 再 生 通 信

3号



この通信は各地域で活動を行っている地域の皆さんや
これから始めようとする皆さんの
活動の参考としていただくため発行しています。
今回は、お便りをいただいた地域の皆さんの活動をご紹介します。



横川第二公園（西区）



「皆で花壇の手入れをします。」

とお便りが届きました。



横川第二公園では、毎朝、公園清掃、花壇づくりをしている人がいます。お二人の黙々と作業を続けられる姿がとても印象的です。公園には、た

くさんの種類の花が並ぶ広い花壇があります。毎日の地道な作業で少しずつ広げてこられました。

この日は、「花壇づくりを応援しよう！」と町内のいきいきサロンの皆さんが、花壇の除草作業を行いました。皆さん、明るい雰囲気の中で楽しく作業が進みました。

—活動のきっかけは？

以前は、草が生い茂って市が行う年2回の除草では追いつかず、たいへんみすぼらしい状態でした。「草を花に変えてはどうか」という発想から活動を始めました。

—資材の調達とは？

報奨金制度の報奨金(*)や、地域からの資材の提供もあります。花壇の間の園路に敷いているマットや縁に使っている瓦も町内にある会社からの提供です。毎日、手入れをしていると、「家であまった苗ですが、公園で使ってください」と苗を提供してくださる方もいます。

* 街区公園清掃等報奨金制度：街区公園の清掃や除草などを定期的に行う町内会等の地域団体に対し報奨金を交付する制度

—嬉しかったことは？

最初の頃は、活動についての苦情もありましたが、花壇ができるにつれ、「公園が



きれいになった」という声が増え、嬉しく思っています。

—困っていることは？

町内会等に呼びかけているものの、なかなか人手が集まらないことです。今回のいきいきサロンの皆さんのように、ちょっとずつ作業に加わる人の輪が広がっていただければいいと思います。

—今後の抱負は？

花壇の一部にビオトープがあったり、パラのアーチがあるイングリッシュガーデンのような整然とした美しさがある花壇にしていきたいです。

向ヶ丘公園（安佐南区）



「花壇を広げ、アジサイを植えました。」

とお便りが届きました。

アジサイの苗木はまだ小さいので、大きくなるまでの間、草花を混植することにしたそうです。すてきな花壇が来園者を迎えています。



向ヶ丘公園では「向ヶ丘花の会」の皆さんが一昨年秋から花壇づくりに取り組んでいます。

—資材の確保は？

公園の環境の改善（犬猫のフンの防止等も含めて）を目的として、自治会から財政的支援をもらっています。また、花の苗は種子をまいて育てたり、地域の方から寄付していただいています。

—苦労していることは？

植え込み部分を花壇にしていますが、高木の根が張っていて、取り除き作業がたいへんでした。

また、地域にも色々な人がいて、いろんなアイデアを頂いて、まとめるのが大変でしたが、ぼつぼつ長続きするように努めてきました。

—よかったなと思うことは？

花の会のメンバーも少しずつ増えてきて、20人ほど



になりました。水やりは当番を決めて行っていますが、水やりをしていると、公園に遊びに来ている子どもたちが「やらせて」「やらせて」と集まってきます。自治会も応援してくれるようになりました。活動を続けてきたことで、少しずつ地域の理解が得られてきていることが嬉しいです。



—今後の抱負は？

花壇の一部には、白花ニホンタンポポを植え、子どもたちの植物観察の場も作りました。子どもたちが綿毛をフゥ〜と吹き飛ばす光景が目につくようです。子どもやお孫さんと一緒に家族で花壇をお世話してくださる方を募集しようと考えています。今後も、花づくりを通じて、やすらぎのある環境となるよう、「ふれあい」と「思いやり」のある地域づくり、人づくりと共に、環境美化を目指していきます。

大林第一公園（安佐北区）



「公園再生で植えたヒカンザクラがきれいに咲きました。」とお便りが届きました。



皆さんで手入れされている花壇は、春の花が咲きそろいかわいらしい雰囲気です。子どもたちも楽しそうに遊んでいます。

大林第一公園では、老人会「第一悦寿会」の園芸部の皆さんを中心に活動されています。

—活動のきっかけは？

活動を始めて3年程になります。以前は、公園にビンや缶、食べ物のゴミが散らかっていました。子どもたちも散らかす姿が見られました。これではいけないと、皆で公園に手をかけていこうということになりました。ゴミ箱も自分たちで設置して、「ゴミはここに捨てる」というのを子どもたちの習慣に

しています。今ではゴミの散らかりがなくなってきました。

—どんな活動をしていますか？

清掃だけでなく、花を育てているのですが、「それぞれ家で育てている花を1つでも持ってきて植えよう」と呼びかけています。自分が持ってきた花が咲いていれば、公園に愛着が湧くでしょう。

公園にあいさつの看板も設置しています。あいさつから地域の人のコミュニケーションが生まれればと思っています。

ちょうちんをぶら下げたのは、変わったことをしたら、「何をしているんだろう。」と地域の皆が注目してくれると考えたからです。通りからもバスを乗っている人からも目を引くと思います。地域の人に公園を意識してもらいたいと考えています。

災害の時も、お年寄りも子どもたちも、何かあったら公園に来るんだよということを習慣づけています。ここに来れば皆がいるから。



—よかったなと思うことや楽しみは？

清掃活動の後には、皆でお菓子とジュースで休憩します。お菓子をつまみながら、いろいろな話をするようにしています。情報交換や話し合いの場になっていて、皆が楽しみにしてくれています。

「元気な人は公園の草取り」という意識が皆に広がっていて、嬉しく思っています。

—今後の抱負は？

小さい子どもが遊べるような公園づくりをしていきたいと思っています。これからののも地域の公園として、活用、利用の幅を広めていきたいです。

* * *

公園再生通信では、活動に役立つ情報をどんどんご紹介していきたいと考えています。また、「どうやって解決したらいい?」「こんな方法もあるよ!」

などの質問や情報もお待ちしています。



公園づくりの手引書「身近な公園再生の進め方」やこれまでの公園再生の事例をホームページでご覧になれます。

広島市ホームページ(<http://www.city.hiroshima.jp/>)

→ ぐらしのインディックス → まちづくり

→ 公園・緑化・緑地保全 → 身近な公園再生事業